

創立100周年まで経営者として継続を 次世代に繋がる新事業の創出が課題

ゲスト

宮 幸 茂自動車精工(株)
代表取締役社長

爽やかイメージの宮幸茂社長は34歳

少子高齢化の今日、後継者に悩む企業は多い。組織が大きくなると、計画的に社内で後継者を育成することも出来るし、場合によっては有能な人材を社外から招き入れることも出来る。問題は中小で、とくに家業として発展した場合は血縁で繋ぐことになるので人材は限られることになる。飼料運搬車やセイコーラックで知られる自動車精工は特装車の草分け的存在。このほど3代目社長に就任した宮幸茂社長は先代(宮幸朗会長)の長子で頭脳明晰、体格にも恵まれた爽やかマンである。しっかりした将来ビジョンもお持ちで、新たな若手リーダーとして期待される方である。

■3代目は34歳のフレッシュマン

□横 路 ご尊父の宮幸朗会長さんも長身ですが、(宮幸茂)社長も背が高いですね。

■宮 幸 はい、190センチあります。これも遺伝でしょうか(笑)。

□横 路 私の父の時代(明治

45年生まれ)は、全体に背が低いし、団塊世代の我々も現代の若い人たちに比べると低いですから、遺伝だけでなく食生活の影響も大きいように思います。羨ましい限りです。

■宮 幸 小さい時分からサッカーやバスケットボールに親しんで来ましたので、長身であることは恵まれていたと思います。

□横 路 しかも色白でマスクもいいから大モテだったと思います(笑)。

自動車精工さんは特装メーカーの草分け的存在ですから、日本の車体産業発展に大きく貢献しておられます。創業当時(昭和29年)は、まだ敗戦の痛手が色濃く残っていましたが、色々な車両を手掛けておられます。当時の様

子を創業者の故堀政樹氏にインタビューした記事も本誌の前身「特装車とトレーラ」に遺っています。

■宮 幸 はい、その記事は会社にコピーが残っていたので、読ませていただきました。私の知らなかった会社の歴史や創業者の想いを知ることができ、今でもたまに読み返しています。

□横 路 後年には、宮幸朗会長にも対談させて頂きました。

■宮 幸 祖父の記事が掲載されたのは私が6歳の頃で、父の

記事は中学か高校の頃だと思います。

□横 路 今回で3代に渡って社長インタビューをさせて頂く訳ですから、光栄の限りです。

車体産業の歴史は、まだエンジンのない大八車にまで遡ることになりますが、ダンプなど働くクルマが活躍するのは戦後です。自動車精工さんもその時代の要請で色々な車両を手掛けておられますが、特装車は飼料運搬車、車両部品ではアオリ開閉補助装置

の「セイコーラック」がロングセラーになっていますね。

■宮 幸 はい、その他にも福祉の分野で、セイコーラックの技術を応用した手動式入浴リフト「バスラック」などがあります。

□横 路 そうですね。その点主力製品を堅持しながら新しい分野を切り開いて来られたところが御社の特徴ではないかと思います。

■宮 幸 ただ、最近は次世代を担う商品開発が大きな課題



大型飼料運搬車



中型フルトレーラ飼料運搬車

です。

□横 路 次世代商品という意味では車体産業界全体の課題だと思います。とくにこの業界は経済活動と強くリンクしていますから、景気の影響をモロに受けます。少子高齢化の次は人口減ですから、市場は縮小の方向です。

■宮 幸 ものづくりを限定的に考えると、そういう事になるかも知れませんが、どんな時代であっても淘汰と開発が繰り返されて来たと思いますので、時代変化を見極めて果敢に挑戦することが大切だと思います。

■社長交代を機に ロゴマークを一新

□横 路 そうですね。ただ我々

世代の感覚では世の中の変化が激しすぎます。エコノミストは“第四次産業革命”と呼んでいます。あらゆる産業が急激に変化しています。この先、AIやIOTなどが普及すると変化のスピードも激的に早くなります。私はこの現象を「加速度的変化」と呼んでいるのですが、その先を予測することは大変難しいことではないかと思っています。宮幸さんはそういう時代に社長に就任された訳ですが、その点どのようにお考えですか。

■宮 幸 いきなり核心を突いた質問ですが…(笑)、正直いってこの先世の中がどのように変化するか、その予測はできません。

ただ約半年前、社長に就任した時、「ものづくりで、喜びをつくる」

という経営理念を制定しました。社員には、「当社はものづくりの会社だけれど、ものづくりが目的ではない。ものづくりを通して社員であったり、お客様であったり、関係する全ての皆さんの喜びをつくり、笑顔にすることが目的だ。」という話をしました。経営者としては、社員がお客様や取引先を大切にできるように、社員を大切にしたい、という事を常々考えています。

□横 路 なるほど。社会における企業と経営者の役割を明確にすると、社員も働きやすくなるので、会社の一体感が強化されるように思います。

■宮 幸 ただ、その為には事業が土台としてしっかり構築されていなければなりません。現在、

当社の事業は飼料運搬車を中心とする特装車事業が売上の約6割、セイコーラックを中心とする車輛部品事業が約4割です。

□横 路 どちらも事業として、しっかり土台が出来ていますよね。

■宮 幸 その基盤は先輩の皆さんが頑張って築いたものですから感謝しているのですが、それに甘んじている訳にはいきません。体制も時代に合わせ変える必要がありますので、私が社長就任と同時に工・販(株リフト)分かれていた組織を自動車精工に統合しました。

□横 路 自動車メーカーさんもバブル崩壊後には工販を合併しました。

宮幸 販売部門を分ける方が良

い場合もあると思いますが、企業を一枚岩として強固な組織にするためには、分かれていないほうが良いと考えました。

□横 路 同時に会社のマークも新しくされましたね。

■宮 幸 はい、これまでのロゴマークは、会社創立25周年の時に社内公募で決まったもので、円周を100年に見立て、100年の四分の一の25年を「S」の弧で表現したものでした。100年続く会社になっていきたいという決意をロゴマークに託しています。

新しいロゴマークは、会社の合併や社長交代もありましたので、新しい時代を切り開いていくという想いを込めております。デザイン的にはこれまでと同じ青い円とSEIKO(精工)の文字をベースに

考えることで、会社の歴史を重んじると同時に、これまで歩んできた道のりをこれからも発展させていくという気概を、自動車精工の



新しくしたロゴマーク

頭文字「J」を勢よく右上に抜ける文字で表現しています。

□横 路 第一印象としては“爽やか”なイメージがあります。新社長のイメージにも通じるものがあります。



予測の難しい加速度的変化の時代

■宮 幸 有難うございます(笑)。

■新しい事業の創出

□横 路 理念を実現する為には強固な土台が必要という事ですが、御社は既に65年の歴史がありますから、土台は既に出来ているのでは？

■宮 幸 手動式入浴リフト「バスラック」ですが、次の商品と言える程には至っていません。

□横 路 これからの時代を考えると、介護を必要とする人は増えて来ますから、方向として

は間違っていないと思います。ただ、自働車の世界とは少し異なりますね。

■宮 幸 その通りです。結局、セイコーラックの技術に応用した技術転用なんです。

□横 路 事業として考えると、必ずしも自働車に拘る必要はないですね。

■宮 幸 次の展開を考える場合、今ある技術に応用する、今ある販路を活用する、それとは別にまったく新しい分野を開拓する、という3つの選択肢があります。私としては3つ目のまったく新しい事にチャレンジすることに興味があります。

□横 路 特装車にしるセイコーラックにしる、最初は何もないところから創り上げた訳ですから、当時は新しいチャレンジですね。私はこの業界は「無から有」つまり開発が重要なキーワードだと思っています。

■宮 幸 そうですね。ただ、これまでの開発はお客様のニーズに応える形で、新しい物を作り上げて来たと思います。

□横 路 そうですね。特装車の場合は用途に合わせて開発する訳ですから、受注そのものに開発が伴っていました。その点が量産でコストを下げる乗用車と大きく異なるところです。

■宮 幸 これは私のテーマでもあるのですが、私の代にひとつは新しい事業を創出したいと考えています。私はいま34歳で会社が創立65年です。創立100年まで35年で、私はほぼ69歳です。この間に何が出来るかを模索しているところです。

□横 路 素晴らしい志だと思います。何かで読みましたがトヨタを創立した豊田佐吉は家訓として「一代一事業の創出」を遺しているそうです。トヨタが自動織機だけに留まらず自働車や住宅など新しい事業を展開している背景には、そうした逸話があるようです。

■宮 幸 結局、時代は変遷するので、その時代に必要とされたものが、いつまでも続くとは限りません。だから新しい事業が生まれます。当社もそういう考え方を持っ

ていないとおいてけ堀を食らってしまうことに成りかねません。

□横 路 恐らく製造業に限らず同じように考えている経営者は多いと思います。要は何を新しい事業としてやるか、という事だと思います。

私は50年近くこの業界を見ている訳ですが、大きく様変わりしています。この先の変化は更に激しくて、AIなどの普及で無用の長物と化すものも出てくるし、新たに要求されるものもあります。その見極めが非常に難しい時代じゃないかと…。

■宮 幸 それは過去も未来も同じじゃないかと思うので、何で社会に貢献するか、そこは時間をかけて取り組みたいと考えています。

□横 路 本誌は自働車精工さんと同じで、昨年5月の改元に合わせて誌名をITV(Intelligent Transport Vehicle)に改題しました。雑誌のタイトルは中面の集約ですから、従来の「トラック」から大きく飛躍したことになります。現実には内容はまだタイトルに伴っていないのですが、10年先には後世の人たちによって評価される内容になれば良いな、と考えています。

■宮 幸 確かに時代変化は益々激しくなるとは思いますが、必ずチャンスはあると思っています。ただ、現時点ではまだビジョンとして示すところまで固まっていないので、当面の課題として取り



創業100年までは自分でやりたい

組みたいと思います。

□横 路 まだ社長に就任して半年余りですから、暫くは現実問題が山積していると思います。

■宮 幸 そういう中でも広く情報を得ていきたいので、異業種の方々との交流も大切にしたいと思っています。

■大学では建築を専攻

□横 路 大切なことです。もしかして、その中から新しい事業のヒントを得ることが出来るかも知れません。

ところで、ご入社前のことも少

しお聞きしたいのですが、スポーツは小さい頃からですか。

■宮 幸 はい、小学1年から4年生の途中まではサッカーでゴールキーパーでした。ちょうどJリーグが始まった頃です。

□横 路 背が高いので最適のポジションです。

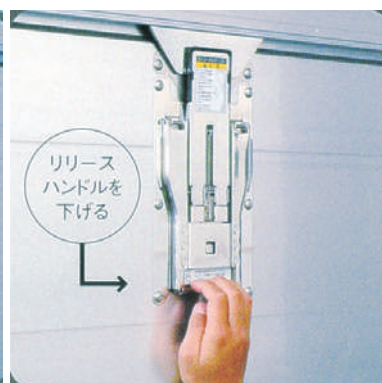
■宮 幸 でも私自身はフィールドを走り回る方をやりたかった訳です。それで、父がバスケットボールをやっていた関係もあってバスケットに転向しました。中学から高校もバスケットでしたので、大学でも体育会でバスケットを続けたいと考えていたのですが、高校2年生の時にトラブルに見舞われました。



セイコーラック® (アオリ開閉省力装置)
高防錆仕様



セイコーホルダー®Slim (スリム)
(ワンタッチ式ウイングロック)



□横 路 え？何が起きたのですか。

■宮 幸 高2でキャプテンにもなったのですが、その直後の練習試合中に左腕を複雑骨折して7時間の大手術をすることになりました。

□横 路 それは不運でしたね。ショックも大きかったと思います。

■宮 幸 当然、練習は出来ないし暫くバスケットボールから離れることになって、大学で何をやるか考えるようになりました。

□横 路 タイミング的には良かった？

■宮 幸 実は、その頃も父の会社(自働車精工)の事はまったく考えてなくて建築の勉強をしたいと思うようになりました。

□横 路 その時点で、ご尊父

(宮幸会長)は後継の話はしなかったのですか。

■宮 幸 一切なくて自由にさせてくれました。それで、父と同じ慶応に環境情報学部があって建築を学べるのが分かって入ったのですが、そこで出会ったのが、紙管やコンテナを利用した建築や災害支援で知られる坂 茂先生ばん しげるでした。それで、坂研究室に入り大学院に進んだのですが、大学院を修了するタイミングで2011年3月11日に東日本大震災が発生しましたので、坂先生に従って東北に向かいました。その時の活動は報道もされましたが高く評価されました。実はその活動の中で知り合った会社¹に一度入社したんですが、どうにも馴染めず短期間で退職してしまいました。そのとき初め

て「自動車精工に入れ」と、父から入社を促されました。

□横 路 宮幸会長も随分辛抱強いですね。

■宮 幸 内心は会社を継承してほしかったと思います。そういう事も感じてはいたのですが、私の意志を尊重して自由にさせてくれたのだと思います。それで、会社を辞めてから、将来について考えている内に、祖父から続く会社を引き継ぎ、存続させていくことが自分の人生を賭けてやる価値のあることだと覚悟を決め、入社の意志を父に伝えました。

□横 路 少し遠回りの感もありますが、見聞を広めるという意味では良かったと思います。

■宮 幸 在学中も建築探訪として青春18切符で日本各地を回ったり、海外にも出掛けました



本誌の銀座事務所にて

ので、後継することは意識していませんでしたが、見聞を広めることは意識していました。

□横 路 元からそういう運命にあったのだと思いますが、親が強制するのではなく、自分で自発的に決断するまで待ち続けた宮幸会長もご立派です。

■宮 幸 口には出さなかったけどそういう素振りは感じていたんです。私が大学1年の頃だったと思いますが、東京トラックショーに出展したので観に来るように誘われたことがあります。もしかしたら、展示会に出展している会社を見せることで、私の意識変化を期待していたのかも知れません(笑)。

□横 路 当時、飼料運搬車を屋外にご出展頂いたことは良く覚えていますが、ところで、社長になられて尊敬される経営者はいらっしゃいますか。



セイコーキック® II型 (後部ドア跳上げ装置)

■宮 幸 本も読みますので沢山いらっしゃいますが、伊那食品工業の塚越寛会長やサイボウズの青野慶久社長の考え方には影響を受けています。利益が目的ではなく理念を大切に経営をされている方に共感します。

□横 路 日本をリードしてきた経営者の本も沢山ありますが、私が共通して想うことは皆さん「人づくり」を大切に考えている

という点です。ものづくりの会社であっても、物を創り出すのは人だから、人のレベルが良くないと良い物も出来ないという事だと思います。

自働車精工さんが100周年を迎えるころ私は107歳ですから、草葉の陰から拍手喝采を贈りたいと思います。

本日はご多忙のところ有難うございました。